

さめがわ

議会だより

第120号

平成22年5月

発行 福島県鮫川村議会

TEL (0247)49-3198

編集者 議会広報委員会



3月 定例会

平成22年度予算の主な内容	2
委員会活動	3
代表質疑	4
補正予算	5
繰越明許費、条例の一部改正など	6
村の考えを問う（一般質問）	7～10
臨時議会（第2回）	11
臨時議会（第4回）	12
行財政改革特別委員会、行政視察研修	13
みなさまの声・議会日誌	14

3月定例会

一般会計

28億4,000万円の

積極型予算

～鹿角平クロスカントリーコース整備、堆肥センター建設に着手～

22年度予算案全員一致で可決

10会計 総額41億1,117万8千円



大樂勝弘村長

3月定例会は、3月8日から12日までの5日間の会期で開かれた。

今定例会では、平成22年度各会計10件の当初予算案をはじめ、21年度補正予算案7件、条例の一部改正・制定6件、辺地に係る整備計画の策定等9件、工事請負契約の締結など全34案件を審議。提出された全ての議案を原案のとおり可決した。

また、一般質問では、4名の議員が登壇し、村政全般についてたどした。

活力ある村づくりの予算編成

10会計の平成22年度予算総額は、41億1,117万8千円、前年度対比3億3,888万3千円(9.0%)の増となっております。「左表のとおり」

一般会計は28億4,000万円で、前年度比3億1,500万円(12.5%)の増額予算であり、新たな事業として、出産祝い金(5万円)の交付、堆肥センターの建設、鹿角平にクロスカントリー

コースの整備事業など。また、景気対策を継続させ、国県の交付金を活用し、村の第3次振興計画の実現と活力ある村づくりの予算編成となっている。

歳入予算の主なもの

村税(村民税)

1億2,199万2千円

村税(固定資産税)

1億3,543万6千円

地方交付税(普通、特別)

13億9,753万9千円

国庫支出金

1億5,464万9千円

県支出金

4億3,049万2千円

村債(辺地債、過疎債、臨時対策債)

3億1,350万円

歳出予算の主なもの

出産祝い金支給事業

175万円

子ども手当支給

6,474万円

子ども医療費助成事業(中学生まで)

1,091万6千円

雇用対策事業

3,903万3千円

携帯電話用鉄塔施設整備事業(塚本、岫長、蔵ノ草、中沢地区)

5,080万円

鹿角平クロスカントリーコース整備事業

2,670万4千円

堆肥センター建設等事業

1億6,908万6千円

中山間地域等直接支払交付金事業

1億2,530万8千円

村道遠ヶ竜戸草線改良事業

3,265万2千円

中核作業道開設事業

5,730万円

公営住宅建設事業(3棟6戸、宿ノ入地内)

9,830万円

大豆振興対策事業

1,477万5千円

合併処理浄化槽整備事業(7人槽20基)

925万7千円

※(詳細は、広報さめがわ4月号に掲載)



「クロスカントリーコース」整備により一層の地域・産業振興が期待される(鹿角平観光牧場)

平成22年度
各会計予算額

会計別		22年度予算額	21年度予算額	伸び率	
一般会計		28億4,000万円	25億2,500万円	12.5%	
特別会計	国保	事業勘定	4億7,200万円	4億8,100万円	△1.9%
		直診勘定	8,800万円	8,800万円	0%
	老人保健	15万4千円	20万2千円	△23.8%	
	簡易水道	8,171万7千円	8,422万6千円	△3.0%	
	村営バス	809万4千円	736万円	10.0%	
	集落排水	3,041万3千円	3,074万6千円	△1.1%	
	介護保険	4億800万7千円	3億6,544万3千円	11.6%	
	交流施設	1,558万7千円	2,041万1千円	△23.6%	
	学校給食	1億3,351万6千円	1億3,517万8千円	△1.2%	
	後期高齢者	3,369万円	3,472万9千円	△3.0%	
合計		41億1,117万8千円	37億7,229万5千円	9.0%	

議 案 調 査

議会開会中各常任委員会は、諸議案の内容について調査を行い、詳細について各課長などから聞き取り検討・審査した。



総務文教
常任委員会

調査内容（主なもの）

○鹿角平クロスカントリーコース整備事業
○交流施設運営事業○地籍調査事業○緊急雇用創出基金事業○ふるさと雇用再生特別基金事業○学校管理費○社会教育費○村税額について○賦課徴収費（委託業務）○財産管理費など

産業厚生
常任委員会



調査内容（主なもの）

○有機の里づくり（バイオマス）事業○中山間地域等直接支払交付金事業 ○戸別所得補償制度の内容について○畜産振興事業補助金○松くい虫防除事業○出産祝い金支給事業、こども手当 ○橋梁長寿命化点検業務○日陰対策事業○原材料支給事業○公営住宅整備事業など

代表質疑(要旨)

平成22年度一般会計予算について

総務文教常任委員会



蛭田 武彦 議員

問 商工費、鹿角平観光牧場費に2,771万3千円が計上されているクロスカントリー走路整備事業は、村、農商工の連携により活性化につながる。コースは草地内など延長2,800m、幅3mであるが、様々な検討が必要になってくる。早急に検討委員会を立ち上げるべきと思われるが対応を伺う。

答弁 村長

整備構想の始まりは、昨年の10月に県陸上競技会顧問の安藤氏、学法石川高校陸上競技部顧問の松田先生が鹿角平に訪れたことによる。長距離選手競技力向上には、クロスカンントリーによるトレーニングが有効であり、こういった練習場所を探

していたところで、適度なアップダウンがある鹿角平の環境にほれ込み、村に整備の要望があったのが始まり。

平成22年度予算においては、延長2,800m、幅3mのクロスカンントリーコースを鹿角平北側の22ヘクタールの草地の周囲に設ける計画である。この計画は、安藤氏、松田先生と協議や高校の陸上選手の試走を行い、コースの拡張性、観光客のアピール度、費用面など総合的に判断し良好であるため結論に至ったものである。関係者協議では、所有者の牧野組合、草地利用組合、有限会社鹿角平観光センターで構成する「鹿角平利用協議会」において構想の説明会を開催し同意を得ている。コース設計の技術面については、県陸上協議会顧問安藤氏、御代田副会長、学石の松田監督から支援の申し出があり指導を受けながらの整備を考えている。

提案の検討委員会の設置は、整備の進捗をはか

りながら設置の是非を検討したい。

産業厚生常任委員会



青戸 孝夫 議員

問 館山公園は年々整備が進んでいる。一方、いわき間や西への交通網が整備され将来的に観光スポットとして脚光を浴びる日があるものと思われる。ついでには、館山公園の完成の姿を大きなパネルにして設置してはどうか。

答弁 村長

館山公園整備は、村政懇談会の中で提案され、着々と伐採や花木の植栽が進み実現してきた。後年の館山公園の姿を思い描くことは夢のあることである。また、現在の城跡の地形を後世に残すこ

とも重要であり、今後実現に向け検討していきたい。

問 農林水産業費、畜産業費の工事請負費1億5,332万円が計上されている堆肥センターについて次の3点を伺う。

- ①22年度に実施する施設、設備はどのようなものか
- ②バイオマス原料の搬入等価格、及び有機堆肥の販売価格の設定と販売方法
- ③有機作物の栽培指導、販売はどう考えているか

答弁 村長

①施設整備は、堆肥センター建築工事、調整池造成工事、下流の水路整備工事、フォークリフト購入1台などとなっている。建屋は、管理棟、1次・2次発酵棟、製品保管庫、パイプハウスから成って建築面積は約2,045㎡。また、太陽光発電、まきボイラーの導入、バイオディーゼル燃料を製造し化石燃料の代替燃料利用の仕組みを検討している。

②価格設定は、工事が23年度までかかる計画なので、今後検討していきたい

い。搬入は、基本的には畜産農家に搬入してもらう。センターでの搬入は、運搬手数料を徴収する考えである。販売方法は、村内農家を中心に、価格は堆肥流通価格を考慮して算定する。

③有機農作物の販売には、消費者の信頼が大事である。生産者への栽培指導者は現在交渉中である。また、ほかに県農業改良普及員、JAの指導員の協力を得ながら有機の里づくりを進めていきたい。



「鮫川村バイオマスүйレツジ構想」
堆肥センター建設地

(富田字八斗蒔地内)

平成21年度 補正予算

地域活性化・きめ細かな臨時交付金など活用
一般会計1億4,325万7千円を追加可決
「さざり荘」建設など22年度繰越して執行

平成21年度一般会計の補正予算(第9号)は原案のとおり、1億4,325万7千円を追加可決し、歳入歳出とも37億807万6千円とした。

補正予算の内容は、財源に有利な景気対策の交付金事業(地域活性化・きめ細かな臨時交付金)など活用を行い、21年度中に補正予算措置を講じ、村民保養施設建設事業、こどもセンター体育館耐震補強工事などは予算の執行を22年度に繰越して事業を執行することとなる。22年度に繰越す事業は次ページのとおり。

歳入補正の主なもの

村税(村民税)

557万1千円追加

- 国庫補助金
 - 子ども手当準備事業費 320万2千円追加
 - 安全安心な学校づくり交付金(こどもセンター体育館) 834万4千円追加
- 地域活性化・きめ細かな臨時交付金 8,287万7千円追加
- 県補助金(森林整備加速化、林業再生事業費) 4,000万円減額
- 寄付金(ふるさとづくり) 171万3千円追加
- 村債
 - 情報通信基盤整備事業債 6,000万円減額
 - 村民保養施設建設事業債(さざり荘) 9,440万円追加
 - ふるさと林道緊急整備事業債 1,190万円追加

歳出補正の主なもの

- 情報通信基盤整備事業負担金(光ケーブル) 605万1千円減額
- 農産物加工直売所改修工事 1,590万3千円追加
- 村民保養施設建設工事(さざり荘) 1億6,000万円追加
- 村民保養施設敷地造成工事(さざり荘) 1,000万円追加
- 体育館耐震補強及び改修工事(こどもセンター) 3,718万4千円追加
- 作業道開設工事 3,550万円減額
- ふるさと林道緊急整備事業負担金 1,350万円追加
- 公民館耐震補強工事 600万円追加

質疑の概要

問 村税の増額の要因は何か。また、税の収納状況はどうか。

答弁 村長 当初予算見込みより収入が増えた。

答弁 総務課長 納税状況は、景気の影響があり例年より低い。区長、職員で督促を行っている。村税完納まで努力したい。

問 鹿角平草地使用料の43万2千円減額は、使用

料収入の減か、規定額の減か。

答弁 村長 これまでは役場が入り、草地利用組合から納入いただいたが、今度から直接所有者と草地利用者として契約をしていただいたために減額。

問 公民館耐震補強工事の増額の原因について詳しい説明を求め。

答弁 村長 これは、公民館の大集会室で、最初は、小規模な改修と見込んだが全く耐震適合しないことから、4,000万円から5,000万円の費用がかかることとなった。

答弁 教育課長 現在耐震補強の設計を委託中で3月中には報告がでる。一体化に見える大集会室の壁は、中段以下は鉄筋コンクリート、中段より上は鉄骨づくり構造で、この鉄骨造りの部分は相応の補強が必要となる。この経過から現時点で600万円の増額を見込んでいる。

会計別		補正額	補正後の予算額
一般会計		1億4,325万7千円増	37億807万6千円
特別会計	国保		
	事業勘定	1,439万円増	5億2,770万2千円
	直診勘定	262万円増	9,506万1千円
	簡易水道	367万5千円減	8,126万9千円
	村営バス	0円	1,243万3千円
	集落排水	5万6千円増	3,157万3千円
	交流施設	555万3千円減	1,753万8千円
	学校給食	313万6千円減	1億3,366万円
合計		1億4,795万9千円増	46億731万2千円

補正が行われた7会計。村営バス会計は総額は変わらず内容が変更された。

繰越明許費一覧（抜粋）

※金額は万円未満切り捨て

22年度への繰越事業（繰越明許費）

25事業、事業費総額で8億9,580万9千円

経済対策交付金事業など・途切れない公共事業を発注

事業名	事業箇所等	金額（万円）
携帯電話用鉄塔施設整備事業	遠ヶ竜地区	6,400
情報通信基盤整備事業	光ケーブル網（村内）	2億3,600
村民保養施設測量設計事業	「さざり荘」	1,300
館山公園整備事業	児童遊具整備、花木購入	1,300
加工・直売所整備事業	「手・まめ・館」改修増築	6,300
交流施設改修事業	「ほっとはうす・さめがわ」	900
観光牧場施設改修事業	管理棟改修	500
体育施設屋根改修事業	農業者トレーニングセンター	3,300
村民保養施設建設事業	「さざり荘」	1億8,000
体育館耐震補強改修事業	こどもセンター体育館	4,200
林道舗装事業	林道前沼八斗蒔線	5,600
全国瞬時警報システム整備事業	役場庁舎	700
防災マップ作成事業	村内版	300
学校情報通信技術環境整備事業	小学校	1,800
小学校耐震補強改築事業	青生野小学校	6,700
学校情報通信技術環境整備事業	中学校	1,400
公民館耐震補強事業	公民館	5,600

条例の一部改正

など可決

▼職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正

県人事委員会勧告に基づき、職員の1日の勤務時間を15分短縮し、8時間から7時間45分に変更。また、月60時間を超える超過勤務が発生した時に、超えた時間について代休が取得できるように改正。

▼職員の育児休業等に関する条例の一部改正

職員の勤務時間の短縮に伴い、1週間当たりの育児短時間勤務の時間を改正。

▼職員の給与に関する条例の一部改正

職員の勤務時間の短縮に伴う給与など改正。

▼重度心身障害者医療費に関する条例の一部改正

身体障害者手帳認定に係る内部障害の規定に、肝臓機能障害が加わったことによる改正。

▼分担金徴収条例の一部

改正

治山事業の受益者分担金を10%から15%に、急傾斜地崩壊防止対策事業分担金の分担率は現行（5%）のままとし、限度額を100万円に新たに設定するもの。

▼職員の給与の特例に関する条例

特例として、管理職の特別調整額（管理職手当）20%削減と通勤手当支給額を上限で片道16キロメートルまでとするもの。

その他

▼辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更・策定について

この計画は、法律に基づいて、辺地とその他の地域との間における住民の生活文化水準の格差を是正するため、辺地債の財政上の優遇措置を講じて公共施設を計画的に整備するもの。（地域により整備計画は異なるが、村道、農林道整備、通学バス整備、携帯電話基地局

施設整備、防火水槽施設整備など）

◇計画の変更をしたもの

①石井草辺地

②西野辺地

③遠ヶ竜辺地

④戸草辺地

⑤欽木田辺地

⑥中沢辺地

⑦渡瀬辺地

⑧青生野辺地

▼白河地方土地開発公社定款の一部変更について

白河地方土地開発公社定款の変更が必要となり構成市町村の議決を求めるもの。

▼工事請負契約の締結

（条件付き一般競争入札）

・契約の目的

青生野小学校耐震補強改築工事

・契約額

5,538万7千500円

・契約の相手

（郡山市富田町）

株式会社オオバ工務店

代表取締役社長 大場俊之



宗田雅之議員

問 雇用と定住人口の維持策を問う

答 新たな地域産業の創出を目指し「地域産業の6次化戦略」を進める

質問 本村の将来を考えると、各施策や事業の一層の強化が急務と考えるが次の点について伺う。
① 県の中小企業対策費を利用した農商工官連携による6次産業化の推進の考えは

② プロジェクトに対する共通の理解と認識を持つことは重要であるが、問題意識、危機意識の共有できる組織づくりの考えは
③ 広域連合における企業誘致の考えは
④ 関心のあるOJを対象に田舎暮らし体験ツアーを全国公募してはどうか

答弁 (村長)

① 「手・まめ・館」を中心として農産物の生産から加工、販売の取り組みを推進する。
② 農産物の加工や商品化にかかわる事業者が、お互いの情報を交換し合う会議を行う。
③ 県南地域産業活性化会議と連携し企業誘致をはかるよう努力する。
④ 若い女性が参加しやすい体験メニューなどです

Aーの魅力を高める工夫をしてはどうかと思っている。また若者同士の交流ができる受入の仕組みが必要なので花嫁対策とタイアップするなど検討したい。

再質問 本村の現状は高齢者、女性の就労の場はあるが若者が勤める場所が少ない。そうなると後継者不足による人口流失は止まらない。これらの対策は6次産業化によって危機意識、問題意識を持った人材育成や組織をつくるのが村を救う道と思うが。



農商工連携による米粉パン加工状況

答弁 (村長) 緊急経済対策で鮫川の農村の景観は少しずつきれいになっている。金銭的にも9億円近い事業が繰り越され

ているので、これらの事業を利用して磨きをかけて次世代に誇りを持ってもらえるような村づくりに取り組んでゆく。

良いと思う。
③ 小学生までは「語り」「読み聞かせ」などのボランティアの協力のもと読書は楽しい遊びと感ずるような事業を4月以降に予定している。学校でも読書についての活動をしていただき、感想画や感想文を書いたり自分の薦めたい本についてのブックトークで作品づくりをする予定だ。

問 読書と新聞による学力向上策を問う

答 読書が楽しい、図書館が身近になるよう努力する

質問 子供の人格形成や学力向上、考える力を養うために次の3点について伺う。
① 2011年から新学習指導要綱の中に新聞活用を盛り込むとあるが考えと取り組みは
② NIE実践校は2008年時点で537校に達しているが、実践校に申請する考えはあるか
③ 多くの子ども達に読書を読ませるために、図書館利用をもっと高める施策を考えるべきと思うが

再質問 世界的な学力向上国フィンランドは読書に力を入れており、影響力は大きい。優秀な子供教育ができている国を見習い地方の小さい村でも実行していくべきと考えるが。

答弁 (教育長) ① 小・中学校の学習指導要綱で読むことへの教材は
○ 国語に対する認識を深

め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと
○ 伝え合う力、思考力想像力を養い、言語感覚を育てるのに役立つこと
○ 公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。など8つの教材が決められており、授業に必要な新聞などの資料は使われており、新指導要綱になってから導入されるものではない。
② NIEは新聞を教材として活用することであり、都道府県で小・中・高校でそれぞれ1校ずつ指定し、子供の読書習慣を養うものである。本村の3校でも別な指定を受けて現在鋭意努力しているのも機会あれば応募するのも

答弁 (教育長) 学校では新聞の社説等を取り入れて道徳の授業や学級活動に使ったりしている。いずれ時期が来た時には学校と連携を図りながらやるのも一つの方法だ。

※NIEとは

学校等で新聞を教材にして勉強する学習である。

問

住民参加による村づくりの推進策を問う

答

広く村民各界、各層の意見や要望を開き施策を進める



関根政雄議員

質問 鮫川村第3次振興計画の課題として「村づくりへの住民参加」が提唱されている。また「女性や若者、村民みんなが参加しやすい工夫をし、村を運営するための理念、方針は村民みんなで定める」とされているが新年度以降の「住民参加の村づくり」の推進策について具体的な方針と計画を伺う。

答弁(村長) 次の2点の視点が重要と考える。
 ①村民が生き生きと輝きボランティア活動に参加していただくこと。保健福祉や社会教育の分野でも数多くのボランティアの方が登録し活動している。村民同士が支え合い地域づくりに参画できるように、関係団体に支援を図っていく。
 ②住民と職員の絆を強め、共に働くことで信頼関係を築くと考える。村の行政機関には各種の委員会、審議会、協議会があるが、これらの構成委員に女性や若者に就任の機会を増やすことも必要ではない

かと考える。

再質問 昨年は行政懇談会が開催されたが、女性と若者の参加者は少なかった。今後はスポットを絞りこみ「青年達の意見交換会」「働く女性、子育て中の女性の意見交換会」等を定期的に開催すれば次の立案、新しい意見が出てくると考える。具体的な村民の声を新しい村づくりに反映させる考えがあるのか伺う。

答弁(村長) 若者や女性に誇りをもってもらえる様な村づくりに取り組んでもらうことが大事であると考える。各団体の場で意見交換の場をつくるべきとも考えている。



村民の意見要望を聞く村民懇談会

問 青年のリーダー養成講座の充実策は

答 青年自身が参加してよかったと感じる講座を提供する

質問 この講座に大きな期待をもっていたが、ここ数年活動が停滞していると見受けられる。将来の本村の担い手、若者の人材育成と定住支援の観点より、現在の青年達の思考や生活環境に見合った養成講座の立案工夫が必要と思うが、新年度の事業方針と計画を伺う。

答弁(教育長) 昨年学級生を募集したところ6名程度と応募者が少なく、しかも仕事の関係で参加者が少なく、地区にも偏りがあるなど開催ができないという状況であった。新年度の事業としては、ユースカレッジ講座生はじめ、多くの村民を対象とし「村の文化の大切さ」についての文化講演会を開く予定だ。著名な先生を講師としてお招きし、地域に誇りを感じる人々になっただけだ

と思う。新年度も講座生を募集するが今の青年の立場を十分考え、できる事から実行し、参加してよかったと思えるプログラムを準備する。

再質問 講座は地域の偏りや人数でなく、いかに継続するかが重要である。各地域には青年達が伝統行事を守る、また過去には一人暮らしの老人宅の雪掃きをやる等の明るい話題があった。本村の将来を語るときに「青年達の力」なくしては、この村をバトンタッチができない。そのような観点から、事業を立案させることが鍛錬の場であり、人数が集まらないとすれば原因はなになのか、青年や地域の環境に見合わない講座であったのか等を追求し、青年の出番を作る事が大切である。今後「お金は出すが、口は出さ

ないからやるだけやれ、責任はこちらでとる」というくらい寛大な気持ちで、若者を育てる事業に取り組む姿勢があるのか伺う。

答弁(教育長) 講座に集まらない原因として、労働条件が合わないこと、欠席の場合には例えばビデオレターで伝えるなど、創意工夫してできるだけ参加し、人と人が語り合う、集い合うことが楽しいという雰囲気づくりを作りたいと考えている。



若者の人材育成が期待される講座



星 一彌議員

問 農業振興と農商工連携との 取り組みを問う

答 生産者、関係者、行政が一体となり 地域が豊かになるよう努める

質問 農業の保護と食料の自給率の向上も求められ戸別所得補償制度も実施されるなど、中山間地域の農業も見直される時代になり、次の3点について伺う。

① 水田利活用対策として・平成22年度産米の指示数量は・稲ホールクoppサイレージ、飼料米、米粉の取り組みについて
② 有機の里づくり事業が実施されるが、畜産農家も飼料の高騰、子牛の低価格により経営内容も厳しく、畜産農家、頭数とも減少傾向にあるが、今後の頭数の維持や支援策についての考えを伺う。
③ 「手・まめ・館」を核とし農商工連携を更に強め、6次産業を充実させ「葉っぱビジネス」を含め普及させ振興に努めるべきと考えるが。

答弁 (村長)

① 平成22年度産米の指示数量は1,971・7トン、面積に換算して442・1ヘクタールとなる。また稲ホールクoppサイレージ等の取り組みに

ついては各地区で戸別所得補償制度モデル対策説明会を実施したところである。これは自給率向上を目的として水田を活用して転作作物を生産販売する農家に米と同等の所得が得られるよう支援する制度である。村としてはこの制度を十分活用して、農家の皆さんが所得向上を図られるよう指導していく。

② 畜産農家への支援は村単独「畜産輸入飼料高騰緊急対策事業」により対処する。子牛の価格低迷に対しては「優良肉用繁殖雌牛導入基金」により将来性がある雌牛を6歳以上の農業者に50万円以内で1戸に1頭を5年間無利子で貸し付ける事業を行っている。また優良和牛基礎雌牛、高能力乳用雌牛の導入事業に対し、1農家5頭を上限に一頭当たり15,000円を継続助成する。

③ 全国の実例を見習いつつ、大豆、エゴマや米粉、新たな農産物、林産物、畜産物等の戦略的作物も視野に入れ、鮫川ブランドとして高い付加価値と相乗効果を生み出すことを狙う。また第6次産業を進め、生産者や関係機関、行政が一体となり地域が豊かになるよう努める。

再質問 米粉利用は経済団体や大きな食品会社など提携することも必要ではないか。また本村の収入のもととなっている畜産の循環農業確立が経営にとって不可欠な形ではないか。次に農産物においては地域特性を生かした高原野菜などを販売できれば消費の拡大になるのではないか。

再質問 米粉利用は経済団体や大きな食品会社など提携することも必要ではないか。また本村の収入のもととなっている畜産の循環農業確立が経営にとって不可欠な形ではないか。次に農産物においては地域特性を生かした高原野菜などを販売できれば消費の拡大になるのではないか。



米の消費拡大を狙う米粉加工事業

答弁 (村長)

米粉利用については国県にも働きかけて消費拡大、生産奨励を図っていく。また本村の中山間の農業にとっては平地の対策、手段として「有機農業」という手間暇かけた農業が重要な産業と思われる。今後も優秀な良質堆肥の生産と畜産農家

問 地デジ対策の進捗状況と対応は

答 村民の暮らしに支障が生じないように支援する

質問 平成23年7月、地上デジタル放送の完全移行に向けて共同受信施設の新設・改修の組合が結成されつつある。本村の新設・改修を含め、進捗状況はどうか。また組合に未加入の家庭もあると聞くが要因と戸数は。更に各戸の高額なる負担も予想されるが、負担軽減策はあるのか。

答弁 (村長)

本村のNHK共同受信組合が11組合の内10組合が地デジ改修を完了している。また

との提携を結んで有機の里づくりに努める。また「手・まめ・館」の農産物の加工品は「鮫川村でなくては食べられない」という加工品の開発が必要かと思われる。今後しっかりと学習しながら取り組んでいく。

東京電力の共同組合は4ヶ所についても完全移行に間に合うように改修が進む予定である。課題は個人、近所同士のアンテナを活用している160世帯については国の支援策がある。1世帯当たり35,000円を控除した対象経費の3分の2について国の補助金がある。また個人負担と国の補助金で賄えない場合は村で助成する。

この他にNHKの助成金もあるので、住民の負担も軽減できると思われる。

問

鮫川村自立推進プランの実績、反映、次期策定計画を問う

答

現行計画の見直しを行い、新たな計画を策定すべく事務を進める



前田雅秀議員

質問 財政的な困難に直面している中で、多くの町村が地方分権改革の進展及び組織の能力・活力の重要課題に対応するために、行革大綱に基づいた様々な取り組みを展開している。本村も終期を平成21年度までとする「鮫川村自立推進プラン」が平成17年12月に策定されたが次の各点について伺う。

- ①平成18年度以降に見直しをする事項に掲げられていたものはどのように見直しをしたのか実績を伺う。
- ②平成22年度の当初予算において、行革大綱はどのように反映されたのか、
- ③「鮫川村自立推進プラン」の終期は平成21年度となっているが、平成22年度からの次期計画の策定について伺いたい。

答弁(村長) 本村は平成15年に当面合併をせず自立を目指す道を選択して以来、行政改革を早急に進めるために、庁舎内課長等による行政改革会議や行財政改革推進本

部を設置し改革に取り組んできた。平成18年度以降に見直しをする事項に掲げられた実績は次のとおりである。

事務事業(経費)の見直しでは民間委託の推進として財務会計システムを導入。調理業務等の全面委託については地産地消と食の安全・食育、古殿町との共同調理。広域行政の推進では介護の認定事業の一部を白河地方広域市町村圏整備組合に事務処理をしている。また経費全般の見直しでは「議員定数・特別職報酬等審議会」を設置した。

自主財源の確保では村有地の有効活用、遊休地の売却を入札により実施した。

住民支援等の効果的施策の展開では館山公園の植栽草刈り等で多くのボランティアの協力をいただいた。行政組織・機構の見直しでは建設工事、改修工事の一括担当化について1級建築士を雇用して仕事を進めている。

職員の適正配置では職員数のバラツキを解消し、定員管理を進めている。職員の意識改革及び定員管理の導入では22年度は村独自の職員研修の実施を計画している。職員の勤務条件等の見直しでは給与表を8級制から6級制に改正し給与区分を明確にした。また人事評価制度を導入し、評価の報告を基に昇級を決めている。

古殿町との連携で運営する給食センター



行政の情報化等行政サ

ビスの向上ではより多くの村民の方への確に情報が伝達できるように務めている。公共施設の管理運営では公の施設の指定管理者制度の導入で地域に密着した運営形態で業務を行っている。また、入札制度の見直しでは、平成20年度から一般競争入札を取り入れたところである。

再質問 職員の意識改革を村独自でやると答弁したが、どのようにやるのか伺う。

答弁(村長) 上司による職員の評価である。年度が過ぎれば昇給するのでなく、所属の長が昇給するに適當か不適當か、それを点数で評価し、昇給の基礎とする考えた。

また村独自で先生を選び職員を強化、研修会等を行う計画だ。私が村長になってから職員が18名減となった。これが果たして適正かどうかは検討中であるが、不足であれば臨時職員で対応していきたい。

財産取得後の検証 越虫地内の宅地・住宅

村誘致企業である(株)オーゼキの社宅・宅地の取得に對して、鮫川村議会は「建物の価値及び立地条件等」を検討して賛成多数にて可決をした。

取得不動産は国道289号沿いの宅地974・08㎡、建物196㎡、軽量鉄骨スレート葺2階建。取得価格は974万円。現在は村診療所へ新しく着任した北崎先生の住宅として貸しており、有効活用が期待される。



取得住宅を現地調査する議会調査団

第2回臨時村議会

財産の取得などを可決

堆肥センター敷地取得、 小中学校情報通信機器等を整備

平成22年第2回臨時議会は、2月12日に開催され、21年度一般会計補正予算1件のほか堆肥センター等の敷地の土地取得、小中学校の情報通信機器等の財産取得、林道舗装工事請負契約の締結3件が提案され、4議案すべて全会一致で可決した。

補正予算 一般会計(第8号)

平成21年度一般会計補正予算は、歳入、歳出とも3万円を追加し、予算総額を35億6,481万9千円とした。

(歳出の主なもの)

経済危機対策臨時交付金事業

・農産物加工直売所建築
用材製材業務

・2000万円追加
交流施設設備改修工事

100万円減額

・農業者トレーニングセンター屋根改修工事

100万円減額

堆肥センター用地費

381万4千円減額

土地の取得

・土地の表示

大字富田字八斗蒔

76番地4 外31筆

・取得面積

3万3千199㎡

・取得目的

バイオマスヴィレッジ整備事業

・契約金額

2,035万8千568円

・契約の相手方

江田 啓子 外4名

財産の取得

・契約の目的

平成21年度学校情報通信技術環境整備事業

・「鮫川中学校等パソコン・周辺機器・LAN工事」

・「LAN工事」

・契約の方法

指名競争入札

・契約金額

2,724万7千500円

・契約の相手方

(郡山市大町)

富士テレコム株式会社

郡山支店

支店長 武藤 智

工事請負契約の締結

(条件付き一般競争入札)

・契約の目的

林道前沼八斗蒔線舗装工事

・契約額

6,342万円

・契約の相手方

(基町大字基字大町)

深谷建設株式会社

代表取締役 深谷佳孝

質疑の概要

問 財産の取得について、情報通信の整備として、小中学校3校への整備を行うが、3校に対する整備比率、また、周辺機器の内容等の詳しい説明を求める。

答弁 村長

村内、各小・中学校3校に対してのコンピューター機器の整備である。公務用が3台、教育用が77台を配置。また、これら通信のLAN工事を行う。

答弁 教育課長

コンピューター機器は先生方が職員室で使う公務用として、各小・中学校3校に1台ずつ配備。構成は、本体、液晶ディスプレイ、マウス、ソフトウエア等の内容。教育用として鮫川中学校は、デスクトップパソコン36台。鮫川小学校にはノートパソコン13台。ほかにタブレット型ノートパソコン各1台を各小・中

学校の普通教室にソフトウエアと合わせてそれぞれ整備。周辺機器としては、コンピューター同士をつなぐためのホストコンピュータの整備やカメラ、プロジェクターの画像システム、それに伴う教育用のソフトウエアなど整備する。各教室すべてインターネットで接続するための、LANケーブルの整備工事などの中身になっている。

問 これまで中学校の教育用パソコンは、リース契約とのことであるが、今回は買い取りか。

答弁 教育課長

今回は、すべて買い取り。また、今度の整備事業では、国補助が3分の2の高額補助であり、さらに補助残は経済危機対策交付金として100%国庫のお金が使える。



着工した林道前沼八斗蒔線舗装工事
22年度線越事業(富田字前沼地内)

第4回 臨時村議会

特別交付税の増など 一般会計9,750万円追加可決

最終予算額38億557万6千円

平成22年第4回臨時会
は、3月29日に開催され、
条例改正1件、21年度補
正予算6件、工事請負契
約の変更1件、その他1
件が提案され、9議案す
べて全会一致で可決した。

平成21年度一般会計補
正予算は、歳入、歳出と
も9,750万円を追加し
予算総額を38億557万
6千円とした。

補正予算 一般会計(第10号)

歳入では、年度末に交
付決定される「特別交付
税」は村の事業が評価さ
れ前年度より1,300万
円余りの増額となった。
また、「さざり荘」改築が
認可になり交付金の追加
が確定したことにより、
村の財政調整基金を減額。
また、今回の補正予算は
予定した事業の確定など

による最終補正を行うも
のとなった。

(歳入の主なもの)

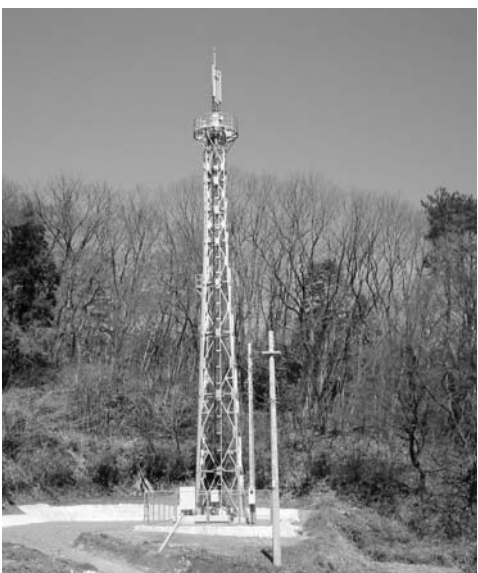
- 地方道路譲与税 580万7千円減額
- 地方揮発油譲与税 319万3千円追加
- 地方交付税(特別) 1億203万円追加
- 国庫補助金 地域活性化・公共投資臨時交付金 5,060万2千円追加
- 地域活性化・きめ細かな臨時交付金 1,650万円追加
- 県補助金携帯電話等エリア整備事業費 1,236万1千円減額
- 村債 携帯電話等エリア整備事業債 290万円減額
- 村民保養施設建設事業債 5,440万円減額

(歳出の主なもの)

- 地域活性化・生活対策臨時交付金国庫返還金 3,254万5千円追加
- 積立金 財政調整基金 9,000万円追加
- 教育施設整備基金 3,808万1千円追加
- 携帯電話基地局建設工事 1,190万円減額
- 新型インフルエンザ予防接種助成費 214万8千円減額

条例改正

▼奨学基金貸与条例の一部改正
新たに専門学校在学者を加え、貸与額は短期大
学者と同額の5万円以内とする。



整備が進む携帯電話通信網

会計別		補正額	補正後の予算額
一般会計		9,750万円増	38億557万6千円
特別会計	国保 事業勘定	32万7千円増	5億2,802万9千円
	介護保険	2,647万円減	3億5,914万6千円
	交流施設	35万円減	1,718万8千円
	学校給食	57万8千円減	1億3,308万2千円
	後期高齢者	187万5千円減	3,304万8千円
合計		6,855万4千円増	48億7,606万9千円

工事請負契約の変更

・契約の目的
林道前沼八斗蒔線舗装
工事
・変更事項
契約額1,719万9千
円を増額し契約額を8,
061万9千円に変更
する。

(変更内容)
当初舗装工事延長1,8
40mに舗装延長43
9・9mを追加し、全
線舗装を完成させる。
・契約の相手方
(埴町大字埴字大町)
深谷建設株式会社
代表取締役 深谷 佳孝

その他

▼福島県市町村総合事務
組合を組織する団体数の
減少及び福島県市町村総
合事務組合の規約の変更
について
当組合から、郡山地方
広域市町村圏整備組合が
脱退。「公立小野町地方綜
合病院組合」の名称を
「公立小野町地方総合病院
企業団」に変更する。

行財政改革特別委員会

「さぎり荘」建設場所は条件を付して同意

議会改革の検討では、一般質問に「一問一答」方式の導入を検討



「さぎり荘」建設予定地を調査

行財政改革特別委員会（前田武久委員長）は、平成22年度予算編成確定の前に、主な事業予算の調査を行ってきました。

第4回開催（1月26日）では、予算編成の原案となる副村長、総務課長査定時の資料提出を依頼し、内容について特別委員会への説明を受け、新規事業の掌握や財源の効率性などの視点から、検討を行いました。

また、村民保養施設「さぎり荘」建設場所の選定（ゲートボール練習場）

について、村から議会へ協議があり、宅地候補地の状況視察を行い、村の選定地に対し、条件を付して同意をする特別委員会検討結果報告を村議会議長に行った。

（条件）

- 一 建設とする敷地は、継続的に用地交渉を行い土地取得に努めること。
- 一 日陰解消対策をすること。
- 一 縮小するゲートボール場の対策を講じること。

（委員会報告を内容とする議会報告は、2月10日付で村長に提出）

4月6日に、第6回の特別委員会を開催し、本題である「議会改革」の検討・議論に入りました。検討項目は次期議員定数、議員報酬などで次回以降に結論をだすことになりました。

議会本会議における一般質問方式では「一問一答」方式を近くに導入し、従来の一括質問と併用制とする方向で検討しました。

川内村は、森林づくり、地球温暖化の防止に向けた間伐の推進と森林資源の有効利用及び、「かわうちの湯」温泉ボイラー施設の化石燃料を木質チップ燃料に転換をするため、その施設整備を行った。

施設の構成は、「かわうちの湯」近くに木質チップボイラー一基が、ボイラー棟に格納される。全自動のオーストリア製で年間チップ消費量は約3,000m³を見込む。4月9日に点火式が行われ、今後は休まず燃焼を続ける。木質チップの製造・供給では、山林から貯木場に間伐材が運ばれる。貯木場（ボイラーから約3キロ先）には、木質チップ保管庫、ローダー、2tトラックが備えられる。チップ破砕機により破砕されたチップは、一旦保管庫に保管され、ここから、木質ボイラー棟（サ

議員行政視察研修

4月15日

双葉郡川内村の「木質チップボイラー」導入を視察

「さぎり荘」建設を前に調査



かわうちの湯（委託で運営）1日平均利用者約300人

イロに投入）にチップが運搬される。

チップ加工・管理・運搬までの作業は、森林組合に委託している。委託料は年1,500万円。これまでの石油による燃料代は年間約2,500万円の費用がかかっていた。

施設整備の総事業費は、約1億1千万円。



1日7～10m³の木質チップを燃焼



ボイラー棟



チップ保管庫、周囲が貯木場



鮫川村の人口が年々減少するなかで、都市の生活を後にして定住する方が増えています。その方々の経験や考え方、ご意見は新たな村づくりにとって「重要な村民の声」です。今回は高田三喜雄さん（大字赤坂中野字東前田）にお聞きしました。



高田三喜雄 さんご夫妻

高田さん夫妻は、休みを利用して、村内の仲間で作ったグループ「案山子」で音楽活動をしています。

■ 鮫川村への定住のきっかけは何か。

生まれは私が仙台で、妻が小野町です。勤めの関係から埼玉県で20年間暮らしましたが、お互いにアウトドアが好きで、仕事の合間を利用してはキャンプや山歩きをしてお

りました。このような中で、四季が感じられる自然豊かな所で生活をしたという思いで須賀川市に家を建てたのですが、鮫川村に立ち寄った際に親切的な村民との出会いによって平成9年に鮫川村に越してきました。

■ 鮫川村の印象はいかがですか。

自然が豊かで水がおいしいですが、村外から来た人にもっと自然に接していただければと思います。ちょっとしたあいさつや気配りでお互いに親しくなれるのではないのでしょうか。

■ 鮫川村への要望や提言はありますか。

これだけ豊かな自然があるのですから、もっと自然を利用した地域づくりの工夫が必要ではないでしょうか。こころざし一つで結果は大きく変わると思います。

■ 村議会活動に望むことは。

村民に見える議員活動が重要ではないでしょうか。村民とのコミュニケーションをとり、村政に反映させていただきたい。また、目配りやフックワークも大事だと思います。

議 会 日 誌

- 1月 26日 「さざり荘」現地調査、第4回行財政改革特別委員会
- 2月 3日 長野県・立科町議会視察研修来村
- 8日 国道289号整備要望活動（福島市）
- 9日 第5回行財政改革特別委員会
- 10日 例月出納検査
- 12日 第2回村議会臨時会
- 12日 第3回地方自治研究交流セミナー（鮫川村）
- 22日 県町村議会議長会第2回定期総会
- 宮城県・丸森町議会議員研修来村
- 25日 白河地方広域市町村圏整備組合議会定例会（白河市）
- 26日 東白川郡森林組合通常総会（埴町）
- 全員協議会
- 3月 1日 議会運営委員会
- 8日～12日 第3回村議会定例会
- 16日 例月出納検査
- 26日 第4回地方自治研究交流セミナー（棚倉町）
- 29日 第4回村議会臨時会
- 4月 6日 第6回行財政改革特別委員会
- 13日 例月出納検査
- 15日 議員行政視察研修（双葉郡川内村）

編 集 後 記

平成16年10月23日午後5時56分の出来事である。中越大地震発生。「国破れて山河あり」というが、その山河が一瞬にではなくなくなった。あの山古志村はその3年後、姿こそ変わったが絶望から未来へ希望を見つけた。望まれる所までたどり着く災害復旧であり、実は人間復旧であったという事を忘れてはならない。

山古志の闘牛祭は、神々との前で闘いを奉納することが目的であって勝敗が問題ではなかった。山古志の闘牛も全ての勝負を引き分けに終わらせるのが決まりであり、おそらく山郷で肩を寄せ合い、力を合わせて暮らす人々の知恵だった。また知恵を絞って山郷の暮らしを豊かなものにしていった。それぞれの祭りや行事はどれも盛大にそして牛の角突きはその集落一つに結ぶ。

大変厳しい経済、そして雇用情勢ではあるが、せめて心に余裕を持ち、村の活性化に向けて皆様と共に取り組んで行きたい。

（編集委員 蛭田武彦）